

(終了時評価)

研究開発課題名	I C T 施工推進に必要な技術基準類整備に係る調査研究	担当課 (担当課長名)	国土技術政策総合研究所 社会資本マネジメント研究センター 社会資本施工高度化研究室 (室長：山下 尚)
研究開発の概要	・ i-Construction の推進に必要な I C T 施工に係る技術基準類について、民間より策定・改定が提案された新技術をもとにした ICT 施工の技術基準類策定・改定に必要な審査基準等の標準化を図る。 ・ 審査基準等の標準化にあたって、民間からの提案に対し、提出資料、ヒアリングによる情報収集を行うとともに、工事現場・試験フィールドにて技術の検証を実際に試行する。 【研究期間：令和2年度～3年度 研究費総額：約20百万円】		
研究開発の目的・目標(アウトプット指標、アウトカム指標)	【目的】 ・ I C T 施工の技術基準類の策定・改定に関して、民間からの提案内容を技術基準の策定・改定につなげる方法の標準化 【目標】 ・ I C T 施工の技術基準類の策定・改定に関して、民間からの提案内容を検証する審査方法の標準化 ・ 審査基準等の標準化のため、民間からの実際の提案に対し、提出資料、ヒアリングによる情報収集を行うとともに、工事現場・試験フィールドにおける提案技術の検証を試行		
必要性、効率性、有効性等の観点からの評価	【必要性】(科学的・技術的意義、社会的・経済的意義、目的の妥当性等) 国土交通省では、建設現場の生産性を向上させ、魅力ある建設現場の実現を目指す i-Construction を推進しており、このトップランナー施策の一つである「I C T の全面的な活用」について、平成28年度の土工への活用を皮切りに、幅広い工種について、I C T 活用工事に必要な出来形管理要領、監督・検査要領等の技術基準類を順次整備してきたところである。建設現場の生産性向上を実現するため、民間からの提案制度を設け、提案された新たな計測技術、施工技術を適正、迅速に評価し、技術基準類に反映する必要がある。そのためには、提案の審査基準等を標準化するとともに、提案者にも示す必要がある。 【効率性】(計画・実施体制の妥当性等) 実際に I C T 活用工事の施工、計測に関わってきた民間からの新たな技術を適切に審査することにより、現行の技術基準類に新たな技術を効果的に導入する速やかな策定・改定が可能となる。もって、生産性向上にも寄与する。技術基準類を所掌する国土交通本省と連携し対応する。 【有効性】(目標の達成度、新しい知の創出への貢献、社会・経済への貢献、人材の養成等) 技術基準類作成を所掌する国土交通本省と連携し、対応できるよう、民間提案募集要領の内容へ反映した。提案者、審査機関(国総研)とともに、実際に ICT 活用工事の施工、計測に関わってきた民間の技術を取り入れるための技術基準類策定・改定の作業が効率化された。また、路面切削工において写真測量技術を用いた出来形管理を行う民間提案など、9項目について、技術基準類策定・改定を実現した。		
外部評価の結果	研究の実施方法と体制の妥当性については、I C T 施工は進展が著しくかつ適用を迅速に進めるべき分野であり、民間企業や本省と連携するなど必要な検討体制にて研究を実施されたことから、概ね適切であったと評価する。 目標の達成度については、確立されていなかった新たな技術の標準的な検証方法について、審査方法の検討が進み、一定の成果が得られたことから、目標を達成できたと評価する。 今後は、公表する審査基準項目・観点と、実際の審査内容との間に相違が生じないように、申請者側の受けとめ方も考慮しながら運用することが望まれる。 <外部評価委員会委員一覧>		

	<p>(令和4年10月19日、国土技術政策総合研究所研究評価委員会分科会第一部会)</p> <p>主査 古関 潤一 東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻 教授</p> <p>委員 里深 好文 立命館大学理工学部 教授</p> <p>中島 典之 東京大学環境安全研究センター 教授</p> <p>※詳細は、国土技術政策総合研究所 HP>国総研について>研究評価>令和4年度 (http://www.nilim.go.jp/lab/bcg/hyouka/index.htm) に記載</p>
総合評価	<p><input checked="" type="radio"/> A 十分に目標を達成できた</p> <p><input type="radio"/> B 概ね目標を達成できた</p> <p><input type="radio"/> C あまり目標を達成できなかった</p> <p><input type="radio"/> D ほとんど目標を達成できなかった</p> <p>※ プロセスの妥当性や副次的成果、次につながる成果についても特記すべき場合には、当該欄に追記する。</p>